

附属坂戸高等学校 特別支援教育への取組み

附属坂戸高等学校 初谷和行

本年度より特別支援教育がスタートしましたが、附属坂戸高等学校では文部科学省より「高等学校における発達障害支援モデル事業」の委託を受け、その事業とともに特別支援教育を行っております。これまでも学業面やその他の生活面でつまづきや困難が見られる生徒に関して、担任や学年、学校全体でその支援について考えてまいりましたが、それをさらにきめ細やかに、組織的に、全体的に考えていこうとするのが、坂戸高校特別支援教育の基本的な考え方です。

具体的な取組みとしては、1学期は講師として附属学校教育局の指導教員の先生方のご協力をいただき、特別支援教育ならびに発達障害の基本的な考え方に関する講演会を開きました。また、様々な面でつまづきや困難が見られる生徒に関する情報を交換する、特別支援情報交換会を開きました。このように取組み状況としては微々たるものですが、このような取組みを通じて感じたものが二つあります。一つは、想像以上に生徒は様々なことに悩み、困難を抱えているということです。またもう一つは、そのような生徒に対してそれを取り巻く保護者や教師も色々と悩み、解決方法を模索しているということです。

2学期以降は、附属学校教育局や教育相談室の先生方とさらに連携しながら、支援を必要とする生徒のサインを見逃さず、かつ適切な支援を行えるようにしていきたいと考えております。



附属学校教育局に展示中の附属坂戸高等学校の生徒の作品

《編集後記》

秋といえますと、運動会や文化祭、遠足など、たくさんの行事が企画される時期です。もちろん教科指導による学力育成も大切ですが、これら行事は、たくさんのものを子ども達に教授します。まず、普段の教科学習以外のことで高い能力を持つ子ども達があります。普段は見過ごされがちな長所を友だちに知ってもらい、感心されるという経験は子ども達の自尊心に大きく影響するでしょう。特に教科の勉強は苦手、という子ども達にとっては、ヒーロー・ヒロインになれる貴重な機会です。また、このような得意とするものの違いを自覚することは、それぞれみんなに得意なものに違いがあって、それぞれが自分の能力にあった場所で活躍すればいいんだ、といった個性の理解につながるでしょう。さらにこれら行事には、個人が活躍する場のみならず、力を合わせて達成するような課題も含まれるでしょう。個人の能力に依る徒競走も、友だちの応援があればその能力は120%発揮されます。すなわちこれら行事には、自分自身への理解や自尊心の育成、他者の個性の認め合い、助け合いの大切さを学ぶ可能性が含まれているのです。4月に子ども達のところに蒔いた種は、この秋、豊かな実りとなりましたか？

(田中輝美)

ポローニア paulownia

vol.10

発行日……平成19(2007)年10月31日

発行者……附属学校教育局長 谷川彰英

発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
ポローニア編集委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 電話 03-3942-6800

編集委員長……江口勇治

編集委員……生田 茂・田中輝美・菅野和恵・下山晃司
青山由紀・間々田和彦・大村覚男

デザイン……スピーチ・バルーン

印刷……広研印刷 使用紙:U-limax mm [日本製紙]



ポローニア paulownia

子ども達のひろくも

豊かに実る秋に



筑波大学附属学校教育局
<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/>

vol. 10